

最近の森林政策に関する記述 A～E の実施された順番として妥当なものはどれか。

- A. 低質材 (B材・C材) の利用を図るため、集成材や合板などへの国産材の利用を進める「国産材新流通・加工システム」の取り組みが開始される。
- B. 通直な原木 (A材) の大量生産・流通を進めるため、大型の製材工場への原木の供給協定や直送システムを構築する「新生産システム」の取り組みが開始される。
- C. 路網の整備、森林施業の集約化、人材の育成を推進して、木材自給率 50% を目指す「森林・林業再生プラン」が策定される。
- D. 「森林の有する多面的機能の発揮」と「林業の持続的かつ健全な発展」の二つを基本理念とする森林・林業基本法が制定される。
- E. 個々の森林所有者が作成する森林施業計画から、経営意欲があるものへの経営の集中化を狙った森林経営計画へ制度改正するため、森林法が改正される。

- 1. A→E→C→D→B
- 2. B→C→E→D→A
- 3. C→D→A→E→B
- 4. D→A→B→C→E
- 5. E→B→D→A→C

正答：4

間伐に関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。

1. 単層林施業では伐期密度は植栽密度に比べるとはるかに低いのが普通であり、一般に密度が高いほど立木相互間の競争は激しくなるが、競争の度合いによって幹の完満度は変化しない。
2. 定量的間伐は、樹形級区分を基礎に間伐木を選定する方法である。
3. ある大きさ以上の直径の立木を伐る「なすび伐り」や、規格にあった形質と大きさに達した立木だけを順次間伐する方法を択伐の間伐といい、間伐後の育成の主体は間伐前の優勢木が主体となる。
4. 機械的間伐とは、一定間隔で一定幅に含まれる立木のすべてを伐る列状間伐などで、この場合の残存木は優勢木と劣勢木が間伐前と同じ割合となる。
5. 上層間伐は、最も普通に行われる選木方法で、間伐の強度に応じ、劣勢木や欠点のある優勢木から間伐木を選ぶ方法である。

正 答：4

次の文章は森林の防風機能に関する記述である。文章中の A～D に入るものの組合せとして妥当なものはどれか。

森林の枝葉や幹は風の流れに対して障害物となるため風を弱める機能を有する。このため森林は防風林としても用いられている。最適な林帯の密閉度は 前後で、しかも正面からみて、幹・枝・葉が全面にわたって細かく分布しているときに防風機能をもっとも 。最適密閉度をもつ林帯の作用範囲は林帯の高さを h とすると風上側で 、風下側で である。

- | | A | B | C | D |
|----|-----|-----|-------|--------------|
| 1. | 60% | 大きい | $5h$ | $15\sim 20h$ |
| 2. | 80% | 大きい | $5h$ | $20\sim 25h$ |
| 3. | 60% | 大きい | $10h$ | $15\sim 20h$ |
| 4. | 80% | 小さい | $10h$ | $15\sim 20h$ |
| 5. | 80% | 小さい | $5h$ | $20\sim 25h$ |

正 答 : 1